

| | | | | | |
|----|-----------------------|------|----|-----|------------|
| 校種 | 小・ 中 どちらかに○ | 学校番号 | 11 | 学校名 | 宇都宮市立横川中学校 |
|----|-----------------------|------|----|-----|------------|

平成25年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

- ・心豊かで主体的に行動する生徒
- ・進んで学び実践力のある生徒
- ・心身ともに健康でたくましい生徒

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ・当たり前のできる生徒
- ・我慢できる生徒

2 学校経営の理念

教職員としての使命を自覚し、資質向上のための研修、実践に努める教師集団の形成のもと、学習面では基礎的・基本的事項の定着と効果的な家庭学習の継続を目指す。特に、道徳教育の充実を目指し職員研修を充実させる。生活面では社会のルールを守ることの大切さを自覚させるとともに基礎的生活習慣の徹底を目指す。また、本校の特色である「生徒が主体的に活動する学校行事とボランティア活動」を通して豊かな心や主体性を育む教育を充実させ、地域に信頼される学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針（地域学校園内で共通する方針は、文頭に○または該当箇所に下線）

- ・教職員としての使命を自覚し、中学校教育の実践に努める。
- ・21世紀を担う子どもたちが目的を持って主体的に生きるための育成に努める。
- 家庭、地域との連携を図りながら地域に信頼される学校づくりに努める。

4 今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は、文頭に○または該当箇所に下線）

(1) 学校運営

- ・家庭学習の指導、基本的生活習慣の徹底、環境整備、健康教育、外部評価の研究

(2) 学習指導

- 基礎・基本の確実な定着
- 「わかる授業づくり」への取組の工夫
- 主体的に学ぶ学習習慣確立のために、ノーチャイム制を導入

(3) 道徳教育（児童生徒指導）

- 児童生徒指導の健全育成を目指して「あいさつ」「時間」「言葉づかい」

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- ・生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。
- ・健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。
- 望ましい食習慣の形成と食後の歯磨きの徹底

5 学習指導、道徳教育（児童生徒指導）、健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

※ 様式2～4参照

6 特色ある学校づくりに関する取組

(1) 育てたい資質・能力（地域学校園内で共通するものは、文頭に○または該当箇所に下線）

- 自ら判断し、行動できる生徒
- 豊かな心、社会性、郷土愛

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」関連には文頭に◇）

- ◇教職員の資質向上のための研修の充実
- ◇家庭学習の充実（全学年共通の自主学習ノートの活用）
- ◇わかる授業の展開（指導と評価の研究、少人数指導・習熟度別学習の充実）
- ◇放課後学習相談、長期休業学習相談の実施
 - ・豊かな心を育む活動（道徳の授業の充実、読書活動の推進）
 - ・基本的生活習慣の徹底（時間を守る、我慢することの大切さを教える）
 - ・良好な人間関係の育成（生活ノート「スタンダードダイアリー」の活用、教育相談等の連携充実）
 - ・読書活動の充実（朝の読書の充実）
 - ・体力の向上（保健体育、部活動等における体力づくりの充実）
 - ・ボランティア活動の充実（12回ある活動への積極的な参加）
 - ・学校行事の充実（体育祭、文化祭、入学式、卒業式等への積極的な参加）

| | | | | | |
|-----|---|------|-----|-----|------------|
| 校 種 | 中 | 学校番号 | 1 1 | 学校名 | 宇都宮市立横川中学校 |
|-----|---|------|-----|-----|------------|

平成25年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 学習内容定着度調査から

平成24年度「学習内容定着度調査」の成績集計表で本校と宇都宮市との正答率を比べると、1年はすべての教科の正答率が基礎・活用とも市の平均を上回った。これは、地域学校園共通に取り組んでいる「自主学习ノート」の成果が表れたものと考えられるが、正答率が8割に達しているものは少ない。2学年ではすべての教科で各教科とも市の平均を若干下回り、3年生は市の平均を上回ったのは3教科であった。このことから、基礎・基本の定着についてはもう一歩である。

領域別にみると、国語では、1年では「聞く・話す能力」、また2・3年「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」が低い傾向にある。社会では、各学年とも「社会的事象についての知識・理解」は6割を超えているが、「社会的判断・思考・表現」「資料活用の技能」は6割に届いていない。数学では、各学年とも「数学的な見方・考え方」正答率が5割台でやや低い傾向にある。理科では、1年は各領域とも7割近く良好であるが、2・3年は5割台のものが多い。英語では、各学年とも「外国語表現の能力」低い傾向にある。

(2) 学習と生活についてのアンケートから

アンケートから、授業への取り組みについての質問では、どの学年も肯定的に受け止めており、その割合は市の肯定割合を超えているものが多く良好である。しかし、平日の家庭学習において、宇都宮市学校教育スタンダードでめざす学習時間の確保ができない生徒が、1年生（1時間30分）では58.4%，2年生（2時間）では68.8%，3年生（2時間30分）では61.0%存在する。

また、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」に対する回答は、全学年とも市の肯定割合を下回った。

このことから、基礎・基本の定着や家庭学習の必要性について、全校をあげてさらに指導をしていく必要がある。

(3) 授業等への取組状況から

本校の生徒の特徴としては、素直な生徒が多く、与えられた課題には一生懸命に取り組むが、自ら課題を設定し活動することを苦手とし、受動的な態度の生徒が多い。また、定期テスト前には、計画的に学習している生徒もいるが、その反面課題や作品を提出できない生徒も少なくない。また、大勢の前で自分の考えを述べるといった自己表現に対して苦手意識をもつ生徒も少なくない。

2 今年度の重点目標

基礎的・基本的事項の定着を図る授業の展開と主体的に学ぶ家庭学習習慣の定着

3 今年度の取組（地域学校園内で共通した取組は文頭に○、学校教育スタンダードに関する取組は、文頭に☆）

○（1）基礎・基本の確実な定着

☆地域学校園共通の「授業の約束」や学習のしかたの徹底（通年）

☆自主学习（家庭学習）ノートの提出による家庭学習の定着（通年）

○ (2) 「わかる授業づくり」への取組の工夫

- ☆本時のねらいを授業の最初に明確に提示
- ☆話し合い活動のある授業の積極的な導入
- ☆わかりやすい板書のための板書計画
- ☆生徒の考えが深められるような発問の吟味
- ☆各教科でのノートづくりや問題集の進め方についての説明
- ☆実態に即した指導と評価

(3) 学力向上への取組の工夫

- ☆学ぶことの習慣を身につけさせるための生活リズムの確立
- ☆基礎的・基本的事項の定着のための授業の工夫（通年・教科部会等）
- ☆習熟度の程度に応じた指導形態の工夫（通年 特に数学・英語）

○ (4) 読書活動の充実

- ☆全校一斉読書活動の実施（朝の読書）
- ☆図書館司書等のブックトークによる読書の啓発
- ☆図書便りの定期的な発行（月1回）

(5) 教職員による学習支援

「頑張る学校プロジェクト」事業の取り組み

- ☆生徒の学力向上や学習習慣の形成のための支援

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・放課後を利用した学習支援・長期休業中の午前・午後の学習支援 |
|---|

○ (6) 小中学校・家庭・地域との連携・協力

- ☆学習内容定着度調査の結果等のホームページでの公開
- ☆オープンクラスウィーク（学校公開6月、11月 土曜授業4月20日、11月16日）の実施
- ☆家庭学習について保護者会での説明（保護者会実施日）

| | | | | | |
|-----|--------|------|-----|-----|------------|
| 校 種 | 小 ・ ○中 | 学校番号 | 1 1 | 学校名 | 宇都宮市立横川中学校 |
|-----|--------|------|-----|-----|------------|

平成25年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・いじめの件数が昨年度より減少した。いじめ等に関して、教師に相談することが多くなった。
- ・不登校生徒については、数は昨年度と横ばいであるが、登校を始める生徒が多くなった。

(2) 学習と生活についてのアンケートから

- ・【学校生活に満足】【学校のきまりやマナー、社会生活のルールや公共の場所でのマナーを守っている】生徒の割合が、昨年度より数値が上昇している。
- ・【交通ルールを守っている】についても、同様に肯定の割合が高い。(新2年:98.1%,新3年:96.6%)今後とも随時、学級・学年・全体でその内容について生徒に周知し、自転車の安全走行について指導するとともに、事故防止に努めていく。【規範意識と生命尊重の意識の向上】

(3) 学校生活の状況から

- ・明るく元気にあいさつができ、自分たちの学校生活をより良くしていこうという自覚も芽生え、学校行事や諸活動への取組が積極的になってきている。
- ・地域貢献活動(宇都宮市役所・横川地区市民センター・地域協議会等主催の各種ボランティア)へ意欲的に参加するなど奉仕的精神が強い。
- ・指導されたことは素直に受け入れるが、自ら規律ある行動がとれない。特に、きちんとした言葉づかいや身だしなみをする事、清掃に進んで取り組むこと、家庭・地域での望ましい過ごし方をする事などに重点をおいた指導が必要である。

2 今年度の重点目標

「児童生徒の健全育成を目指してーあいさつ・時間・言葉づかいー」(共通スローガン)
～ルールやマナーを守り、集団や自分自身のよりよい向上のためにがまんできる生徒の育成～

○横川地域学校園共通スローガンの掲示 → 基本的生活習慣の徹底及び保護者への啓発「いじめ撲滅」「あいさつ」「時間を守る」「言葉づかい」を重点項目として、横川地域学校園(横川中・横川東小・横川中央小)では心身ともに健康な子どもたちの育成に努める。

3 今年度の取組

(○は地域学校園内で共通する取組 ☆は『宇都宮市教育スタンダード』に関する取組)

(1) 基本的生活習慣の徹底

基本的生活習慣の習得徹底を通して、我慢することの大切さを指導し、自分の気持ちをコントロールし、互いを尊重し合える生徒を育てる。(下記は特に同一歩調で取り組むこと)

☆① 時間を守る(ノーチャイムの実施と5分前行動)

ノーチャイム実施が定着した現在、生徒は始業までに準備をすませ、教師は始業前に教室等に入り、着席の様子や準備の状況などを確認、指導し、始業とともに授業の開始を図る。生徒、教師とも適切なことば使い、場所がらや目的に応じた服装を心がける。朝の登校指導や校内巡視を全職員で毎日実施する。

☆② 積極的なあいさつ「先行あいさつ」の励行

教職員は、生徒に積極的にあいさつをする。また、朝会時、第4木曜日に、生徒会及び学級による「あいさつ運動」を実施する。

☆③ 我慢することを教える

ア 自尊感情の高揚

人の話をしっかり聴く態度を育て、互いの意見を大切にしたり、よい点を認め合ったりできるように、「自分が伝えたいことが相手に伝わるように話すこと」「相手が話しやすいようにしっかりと聴くこと」を朝の会や帰りの会、特別活動の時間等を通して指導する。

イ 規範意識の醸成

社会のルール、学校のルールを守る規範意識のさらなる醸成を図るために、また、人権意識の高揚を図るために、道徳の時間と学級活動を中心に、学級の実態に応じた、いじめや生命の尊重等を題材とした授業を実施する。

(2) 問題行動等の情報の共有化

- ① 生徒指導部会は、問題行動の事後報告にとどまらず、問題を持った生徒の今後の成長のために、どのような体制（チーム）でどのような支援をするかを中心に考える場（解決の方向性と指導法の検討）と位置付ける。生徒指導部に関わる教師だけでなく、全職員による、人的資源を有効に活用した多面的な支援の在り方を検討する。
- ② 各学年の学年会で、「気になる生徒一覧（生徒指導・特別支援等）」を作成し、配慮を要する生徒や、すぐに何らかの手立てが必要とは言えなくても、気になる言動の見られる生徒について、全職員で、共通理解を図る。
- ③ 緊急性のある問題行動等は、朝の打ち合わせ等で、全職員で情報の共有化を積極的に図る。

(3) 良好な人間関係の育成（コミュニケーション力の育成：自分を表現し言葉で理解し合う力）

- ☆① 「宇都宮市スタンダードダイアリー」の活用を通して、悩みや問題の早期発見を図り、生徒同士、生徒と教師の望ましい人間関係の醸成を図る。また、問題等の解決に向け、家庭との連携を密にする。
- ☆② 「Q-Uテスト」の結果を学級経営に生かすとともに、学校・学年で生徒の状況を共有し、生徒一人一人の内面を理解するとともに、要支援群にいる生徒への具体的な対応の方法を検討したりするのに役立つ。（SCを含む職員研修の機会も設定する）
- ☆③ 不登校生徒の解消を目指し、特別支援部会を設け、事案の指針を検討し、SCとの連携、家庭との連携を図る。
- ☆④ 毎月いじめに関するアンケートを実施し、生徒の悩みやいじめの早期発見、早期対応を図る。
- ☆⑤ 教育相談週間を活用し、生徒の学校生活の悩みや不安の解消を図るとともに、部活動面談を実施し、部活動における悩みや不安を把握し、その解消を図る。

○ (4) 家庭・地域との連携・協力（スタンダードP20, 24）

- ☆① 横川中学校地域協議会、PTA、地域諸団体と協力の下、地域ぐるみであいさつ運動を展開し、児童生徒の豊かな心を育むとともに、地域に根ざした学校作りを行う。
- ☆② 地域ボランティアに積極的に参加することにより、勤労や社会奉仕の尊さを体験させる。

○ (5) 横川地域学校園の取り組み

- ☆① 小中学校で連携して、「あいさつ運動強化週間」を同一時期に設ける。
- ☆② 「横川地域学校園共通スローガン」を掲示し、推進することで豊かな心の育成に努める。
- ☆③ 3小中学校でのノーチャイムの実施。
- ☆④ 3校で「いじめゼロイエローリボンシール」を名票に貼らせ、いじめゼロに対する意識を高める。

| | | | | | |
|----|---|------|----|-----|------------|
| 校種 | 中 | 学校番号 | 11 | 学校名 | 宇都宮市立横川中学校 |
|----|---|------|----|-----|------------|

平成25年度 健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

1 健康（保健安全・食育）・体力に関する主な実態

- (1) 定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから
- 定期健康診断結果より、本校生徒の体格は、男子では、2・3年生が身長で県平均を上回り、体重では2年生が上回っている。女子では、全学年、身長は県平均を下回っており、体重は上回っている結果となった。全体的にがっちりとした体型であることが分かり、特に女子は小柄な現状が伺われる。その他、内科や歯科など、疾患を持つ生徒もいるが、比較的健康的であるといえる。
 - 新体力テスト結果では、1年生男女の握力、1・3年生男子の20mシャトルラン、1・3年生男子のボール投げ、1年生男子の立ち幅跳びで全国平均を下回る結果となったが、その他多くの項目で全国平均を上回る結果となった。全体的な体力の向上が見られるため、今年度は、筋力を高める運動や持久力を高める運動、巧みな動きを高める運動など、様々な要素をバランスよく継続して高めていくことが課題であると考えられる。
- (2) 元気っ子健康体力チェックのアンケート及び学習と生活についてのアンケートから
- アンケートから、運動部やクラブに所属し、必要な日数と時間をかけて体を動かしている生徒は、高い値を示している。また、朝食を食べる生徒や3食きちんと食べている生徒も高い値を示している。しかし、テレビやゲームに費やしている時間が多く、健康診断で指摘されているところを早めに治療している生徒の数も伸びていないことから、健康についての関心は必ずしも高いとは言えない。
- (3) 授業や体育的行事等への取組状況から
- ① 授業において、関心のある種目への取り組みは積極的であるが、苦手な種目に関しては消極的である。
 - ② 体育的行事では、企画・運営に生徒も関わり関心を高めている。その為、学級等で団結して取り組む姿勢がみられた。
 - ③ 昨年度の重点課題克服のため、運動の楽しさや喜びを味わえるような授業展開や、基本的な運動の技能や知識を身につける授業の展開を工夫してきた。体力チェックの記録などを見ると少しずつではあるが、記録に伸びが見られるようになり、また、授業に取り組む姿勢にも積極性が見られるようになった。したがって、教師側の工夫次第で生徒自身の健康・安全に対する意識は変わると考えられる。

2 今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は、文頭に○または該当箇所に下線）

「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てると共に、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る

3 今年度の取組（地域学校園内で共通する取組は文頭に○、「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

- (1) 望ましい食習慣の形成
 - ☆① 食育だよりの発行（通年）
 - ☆② 給食時間における食事マナー指導の充実（通年）
- (2) 健康・体力の向上
 - ☆① 保健だよりの発行（通年）
 - ☆② 運動領域ごとの補強運動の導入（通年）
 - ☆③ 体育的行事を通じた健康の保持増進と体力の向上（6月、11月）
 - ☆④ 部活動を通じた健康の保持増進と体力の向上（通年）
- (3) 家庭・地域との連携協力
 - ☆① 「お弁当の日」の地域学校園での共通実施（11月、12月）
 - ☆② 関係機関等と連携した交通安全教室（4月）、薬物乱用防止教室（7月）、避難訓練等の実施（5月・12月）、性と命の出前講座等の実施（11月）
 - ③ 学区安全マップの掲示
- (4) 横川地域学校園の取組
 - ① 健康に関する情報の共有化
 - ② 体力に関する情報の共有化